DOI：10.2490/jjrmc.62.636

基幹研修施設
インタビュー

Jpn J Rehabil Med 2025；62：636-637

東邦大学医療センター大森病院リハビリテーション科

大国生幸 先生
東邦大学医療センター大森病院リハビリテーション科准教授

生活の再出発を支える

東邦大学医療センター大森病院は，「患者に優しく安全で質の高い地域医療」を理念に掲げ，信頼される高度先進医療を実践しています.「リハビリテーション科もその理念を礎に，患者さん一人ひとりに寄り添った個別的なリハビリテーションプランを大切にしています．私たちは，身体の回復だけでなく，その人らしい生活への再出発を支える医療を目指し，常に専門性と優しさの両立を心がけています．さらに特色として，急性期医療の現場において，発症直後や手術直後の段階からリハビリテーション治療を開始できる体制にあります．特に高齢の患者さんにおいては，入院中に身体機能や日常生活動作が低下しやすいため，できるだけ早く，そして的確に対応することを重視しています.」と語るのは，東邦大学医療センター大森病院リハビリテーション科准教授の大国生幸先生です．

大国生幸 先生

**東邦大学医療センター大森病院
リハビリテーション科**

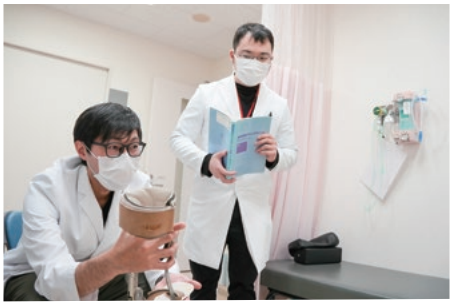
病床数：910 床，スタッフ構成：医師 7 名（専攻医を含む），理学療法士 16 名，作業療法士 4 名，言語聴覚士 3 名
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1

個別的なリハビリテーションプラン

また大国先生たちが大切にしている「個別的なリハビリテーションプラン」について大国先生は,「非常に大切な考え方です．当科では，年齢も疾患も異なる患者さん一人ひとりに合わせて，画一的ではない個別的なリハビリテーションプランを策定しています．たとえば，病前の生活スタイル，職業，家庭環境まで考慮し，できるだけ自然なかたちでの在宅復帰や社会復帰を目指します．医師だけでなく，理学療法士・作業療法士・言語聴覚士とも密に連携し，患者さんの人生全体を見据えた医療を提供しています.」と説明してくださいました．助教の鈴木亨尚先生も，「リハビリテーション科は，急性期の中でも『家に帰る』ことを最も意識して患者さんに接し，病院の中で『退院後の生活』や『自宅での過ごし方』について気軽に相談してもらえるように心がけています．他の診療科の先生方，介護保険制度，訪問診療などとの連携を図り，『この動きができるならこういう支援が可能だ』と専門的な視点で橋渡しをするのも私たちの役割です．これこそがリハビリテーション科の大きな特徴であり，魅力でもあります.」とリハビリテーション科医の大きな役割について話してくださいました．

患者さんに丁寧に接するために働きやすさは重要

働く環境について大国先生は,「リハビリテーション科は，他の診療科に比べて比較的勤務が安定しており，心身に余裕を持って働くことができます．私は『医師に心の余裕がなければ，患者さんに本当の意味で優しく接することはできない』と常に感じています．自分自身の生活や家族も大切にしながら，患者さんにじっくり向き合える環境は，若い医師に



東邦大学医療センター大森病院リハビリテーション科の様子（患者様のお写真に関しては掲載のご許可を頂いております）

とっても大きな魅力だと思います．急性期の現場にいながらも比較的スケジュールを調整しやすいように配慮しており，医療者自身の心身の健康を保持して質の高い医療を提供できるような環境を整えています．女性医師や子育て中の医師にも非常に適しています.」と職場の環境について説明してくださいました．

大森病院は急性期医療の最前線に位置し，脳卒中や脊髄損傷などの患者さんに対し，入院初期からリハビリテーション治療を開始できる体制を整えているそうです．さらに，サイバニックロボット（サイバーダイン社製，HAL®）を活用した先進的なリハビリテーション治療も導入しており，都内でもトップクラスの診療実績を誇っています．

未来のリハビリテーション医療を育もう！

研修体制について大国先生は，「専門研修プログラムを整備する中核施設として，連携病院とのローテーションを通じて，回復期，小児，慢性期など多様なフェーズのリハビリテーション医療を実地で学ぶことができます．実際に回復期病院での１年間の研修を終えて戻ってきた安島和斗存先生は，回復期病院で長期的に主治医としての立場でじっくりと患者さんやご家族と接する経験を経て，大きく成長しました.」と嬉しそうに安島先生をご紹介くださいました．安島先生ご自身も「回復期病院での経験を通して，急性期の患者さんの今後の展開がイメージしやすくなりました．治療や生活に関する説明の際にも自信が持てるようになり，患者さんを説得する力もついたと感じています.」と語ります．

最後に大国先生は次のように温かいメッセージを寄せてくださいました．「リハビリテーション医学は，病気を『治す』だけでなく，『どう生きていくか』に寄り添う医療です．多職種と連携しながら，一人ひとりに応じた診療を積み重ねる中で，医師として，人として成長できる分野だと実感しています．ぜひ私たちと共に，未来のリハビリテーション医療を築いていきましょう.」（文責　広報委員会）